

第 2 回 都市創造性学会 (AUC) 大会

New directions for research on Cities, Societies and Cultures.

Association for Urban Creativity: 2nd Annual Conference

King's College London, 31st May & 1st June 2013

2013 年 5 月 31 日から 2 日間、第 2 回都市創造性学会がキングス・カレッジ、ロンドンにおいて開催されました。その開会にあたり、都市研究プラザを代表し、以下のような挨拶を行いました。

「本学会は大阪市立大学都市研究プラザが文部科学省のグローバル COE に採択された「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」と題する 5 年間に亘る研究プログラムから生まれたものです。約 3 億円の大型研究補助金を基盤として、都市研究プラザは国内外から優れた若手研究者を公募し、研究スタッフを含め約 150 名の体制で、海外サブセンター 8 か所と大阪を中心とする 8 か所の現場プラザを置いて、先端的な都市研究を理論と実践の両面から意欲的に展開しました。中でも、2010 年に大阪国際交流センターにおいて開催された国際シンポジウム「文化創造と社会包摂に向けた都市の再興」には、欧米・アジアの 13 か国から約 800 名が参加して、新自由主義的グローバリゼーションとそれに基因する世界経済恐慌の下で社会的地理的な格差が拡大する中で、文化創造と社会的包摂に向けた都市の再興に関する熱い討論が交わされました。この討論の中から、新たな国際学会の設立に向けたアジェンダと国際ジャーナル *City, Culture and Society* の発刊が全員一致で確認されました。

これを受けて、2012 年 7 月にはパリ政治学院において、Edmond Préteceille 教授のリーダーシップのもとで都市創造性学会の創立大会が開かれ、著名な研究者が参集するとともに、都市の文化的多様性と持続可能な発展に向けて、グローバルな創造都市ネットワークを進めるユネスコの参加を得ました。

本学会が引き続き、21 世紀に相応しい都市のあり方を学際的に検討するアリーナとして発展することを期待します。」

■佐々木 雅幸 (都市研究プラザ所長)

Association for Urban Creativity (AUC) was derived from a research Program of URP entitled "Reinventing the City for Cultural Creativity and Social Inclusion". We held an international symposium at Osaka in 2010 and adopted an agenda for AUC establishment. We held an establishment meeting of AUC at Science Po in 2012. We reach the second meeting, expect that AUC becomes the stage or arena to create a new theory and policy about the city.



オープニングスピーチの佐々木所長

Council Members (2013-2014)

President

Edmond Préteceille, SciencesPo

Board Members

Adrian Favell, SciencesPo

Marisol Garcia, University of Barcelona

Lilly Kong, National University of Singapore

Klaus R. Kunzmann, Technische Universität Dortmund

Luciana Lazzeretti, University of Florence

Toshio Mizuuchi, Osaka City University

Andy Pratt, Kings College, University of London

Masayuki Sasaki, Osaka City University

Allen J. Scott, University of California, Los Angeles

Sharon Zukin, City University of New York

Francois Colbert, HEC Montreal

Volker Kirchberg, University of Lüneburg

Walter Santagata, University of Turin

Secretary General

Hiroshi Okano, Osaka City University

■第2回都市創造性学会の開催とその概要

Association for Urban Creativity: 2nd Annual Conference

2013年5月31日-6月1日の2日間にわたり、イギリス、キングス・カレッジ、ロンドン (KING'S College, LONDON) にて、“Association for Urban Creativity Annual Conference 2013: New Directions for Research on Cities, Societies and Cultures” と題し、第2回都市創造性学会大会 (以下、AUC) が開催された。この大会は、昨年、都市研究プラザとパリ政治学院社会科学研究所 (SciencePo) との共催により行われた AUC 学会創立大会に続き、第2回目となる研究大会で、世界の著名研究者、ユネスコ関係者のみならず、多くの若手研究者による発表が行われ、より充実した大会となった。参加者は、開催校であるキングス・カレッジのほか、LSE、オックスフォード大学を始めとしたイギリス国内著名大学、アメリカ、カナダ、フランス、イタリア、スペイン、ドイツ、オランダ、ポルトガル、シンガポール、南アフリカ、日本などから集まり、総勢約100名の研究者による最新の研究発表と新たな創造都市論構築に向けた議論が展開された。

第1日目は、Andy Pratt 氏 (キングス・カレッジ、ロンドン教授)、佐々木 雅幸 (都市研究プラザ所長/創造都市研究科教授) による開会挨拶に続き Allen Scott 氏 (UCLA 教授) をはじめとした基調講演と2会場に分かれての研究発表分科会、ユネスコ特別セッションが行われ、第2日目には、Lily Kong 氏 (シンガポール大学副学長・教授) による基調講演のほか、若手研究者を中心とした分科会が続き、これからの都市創造性をめぐる新しい方向性について活発な議論が行われた。

■第1日目

開会挨拶に続いて、オープニングの統一セッションとして Allen Scott 氏 (UCLA 教授) が “Beyond the Creative City” と題し、これまでのクリエイティブシティの起源をレビューした上で、これまで「欧米中心に語られてきたクリエイティブシティ」について、指数関数的かつ多様に増えていくクリエイティブシティに関する論文数を例にとり、今、どの位置に

立っているのか、どのようなトピックが語られてきたのか、そして今後どのような方向性へと進んでゆくのかということについて30分間以上に渡り、世界的な都市社会学のあるべき姿について論を進めた。その後、基調講演と2会場に分かれての研究発表分科会、ユネスコ特別セッションが行われた。基調講演は、“Cultural policy, cities and atmosphere” と題し、Francois Colbert 氏 (HEC モントリオール教授) のモデレートにより Deborah Leslie 氏 (トロント大学教授)、Walter Santagata 氏 (トリノ大学教授) の発表が行われた。

分科会は、午前と午後2会場で行われ、午前には、Lily Kong 教授がモデレートを行った、“Cultural policy, arts and the city”、岡野浩 (都市研究プラザ副所長・教授) のモデレートによる “Cultural scenes, cultural clusters and the cultural economy” での研究発表が行われた。その中では、本学から笹島秀晃 (都市研究プラザ特別研究員/文学研究科講師) による “Gentrification and law reform processes in SoHo” に関する研究発表も行われ、活発な議論がなされた。

午後には、Jenny Mbaye 氏 (ケープタウン大学教授) のモデレートによる “Culture, creativity and the Global South”、並行して Edmond Preteceille 氏 (パリ政治学院社会科学研究所主席研究員) の司会による “Arts, creativity & cultural intermediaries in the city” が行われ、その中で、本学、岡野浩 (都市研究プラザ副所長・教授) による研究発表 “Cultural Editing and Urban Branding for Promoting Urban Creativity” も行われ、Edmond Preteceille 教授との議論も白熱し、非常に有意義なセッションとなった。

第1日目、最後の特別セッションでは、UNESCO 副事務局長補 (文化局長) の Francesco Bandarin 氏による発表 “Creative cities and the creative economy” が行われ、都市創造性の今後と歴史遺産との関係の重要性について議論された。

■堀 裕典 (都市研究プラザ特任講師)



King's College の Andy Pratt 教授



岡野教授による研究発表

On May 31 and June 1, 2013, the 2nd Association for Urban Creativity Conference was held over the course of 2 days at King's College in London, U.K. Researchers and other participants, not only from the conference venue of King's College, but from various countries around the world, gathered there, and the meetings concluded on a successful note.

Especially noteworthy features of this conference were Professor Allen Scott of UCLA's talk on the theme of "Beyond the Creative City," and the fact that opportunities were created for presentations by younger researchers on related themes in the special interest sessions. These included discussion with and critique by a group of distinguished professors, and can be regarded as extremely valuable opportunities for the younger researchers. In addition, Francesco Bandarin, UNESCO's Assistant Director-General for Culture, gave an address which was heard by a large audience, and a lively discussion was held, making for an extremely substantive opening day from many different perspectives.

■第2日目概要

第1日目に引き続き第2日も精力的な議論が行われた。

午前中の統一セッションでは、Lily Kong 教授による舞台芸術に対する中国政府の検閲と、その意図せざる帰結として生じた創造的なアート・プロジェクトの事例、Janet Merkel 氏 (Hertie School of Governance Berlin) のカナダのコワーキング・スペースの事例など興味深い報告があった。

ロンドン大会の報告者の多くはヨーロッパの大学に拠点をおく研究者だったが、院生も含む様々な国の人たちが参加しており AUC の広がりを感じることができた。報告テーマも、カナダ、スペイン、イギリスなどなじみのある事例だけではなく、南アフリカ、サウジアラビア、ルーマニアなど多様であった。前回のパリ大会にも参加したが、報告者・報告テーマの多様性という意味ではより充実しているように思えた。

特に、午後の統一セッションでの Jenny Mbaye 教授の報告が印象的だった。彼女の報告の趣旨は、北米、西ヨーロッパといったグローバル・ノースの視点に基づいた創造都市モデルではなく、アフリカをはじめとしたグローバル・サウスの視点から新たな都市ヴィジョンや分析枠組みを提案するものだった。



Lily Kong 教授の講演

2000年代以降、創造都市ヴィジョンそれ自体は、ランドリィやフロリダのテキストに依拠してグローバルに拡散している。しかし創造都市ヴィジョンを受容し実践している都市の政治的・文化的背景は大いに異なる。ややともすると、これまでの創造都市の事例研究は（自戒を込めて述べるならば）、クリエイティブクラスの特定期間への集積によって引き起こされるジェントリフィケーションの問題か、創造都市ヴィジョンを受容した自治体の施策実践（とその効果）の紹介にとどまるものが多かった。それゆえに、様々な国の事例が報告されるが、報告のストーリー展開が上述の2つにとどまるものが多いため、初めて聞く国や地域の事例であっても既視感を持つことが少なくなかった。実際に、今回いくつかの報告を聞いて一番不満に思った点もここにあった。

Jenny Mbaye 教授が、グローバル・サウスからの視点を提案したように、地域の制度や歴史、地理的条件など、事例をコンテキストに埋め込むことによって、事例の多様性を描き分けていくことの意義を感じた。

■笹島 秀晃 (都市研究プラザ特別研究員/文学研究科講師)



Jenny Mbaye 教授の講演

Continuing on from Day 1, there was also energetic discussion on Day 2. In the Plenary Session during the morning there were reports on case studies by Prof. Lily Kong about the Chinese government's censorship of theater arts and the art projects that were spawned as an unintended consequence of that, and by Dr. Janet Merkel about coworking spaces in Canada.

In the individual reports as well, case studies were introduced from a variety of global regions including Greece, Buenos Aires, and Romania. Among these, Prof. Jenny Mbaye of Capetown University's report on "Designing African Creative Cities from a Southern Perspective" was particularly memorable.

■ユネスコ特集

Creative cities and the creative economy: UNESCO policy

第1日目の5月31日の統一セッション「創造都市と創造経済：UNESCOの政策アジェンダ」において、10年にわたって世界遺産センター長などを歴任し、現在 UNESCO 副事務局長補（文化局長）の Francesco Bandarin 氏によって、「創造都市ネットワークに関する議論の状況」と題する講演がなされた。

Bandarin 氏は、創造都市ネットワークが抱えている課題について触れ、従来からの7つのカテゴリーである「文学」・「映画」・「音楽」・「工芸」・「デザイン」・「メディアアート」・「食」の分類について現在見直しの議論を行っていることを示すとともに、その理由として、カテゴリー相互間の交流の難しさなどを指摘し、7分類以外のカテゴリーなども議論の俎上に上がっていることを紹介した。

さらに、先進国と開発途上国の都市間でさらなる交流が必要であるとともに、都市の創造性と世界遺産との密接な関連性を確保すべきことを強調した。今後、9月のボローニア、10月の北京での国際会議での議論を経て、新たな方向性が打ち出される模様である。

また、文化が、2015年以降における国連本体のアジェンダのなかで先頭に位置され、文化が『包摂的で公正かつ持続可能な成長と発展』にとって最も尊重すべきことが主張された。この点については、本年5月17日に中国・杭州で採択された『杭州宣言』において、また、6月の国連総会でのポコバ UNESCO 事務局長による演説においても繰り返し強調されたものである。



UNESCO 事務局長補 Bandarin 氏による講演

次に、UNESCOの文化局部長など長年にわたり UNESCO に在籍した後、現在はパリにあるアメリカン大学教授の近々 UNESCO から出される『創造都市レポート』の編集長である Raj Isar 教授から、UNESCO 創造経済レポートに関するスピーチがなされた。

Isar 教授は、UNESCO からの委嘱により近日中に公表される『創造経済レポート特別号』の内容に触れ、開発途上国における現地サイドの文化・創造産業を育成することの重要性やそのための課題を説明するとともに、文化・創造産業は創造性と革新性を推進するエンジンになることが示された。

なお、都市創造性についての Bandarin 氏の見解は、国際ジャーナル *City, Culture and Society* の第2巻第3号 (UNESCO 特集号) の編集後記や、第3巻第4号から開始した Urban Creativity Forum の巻頭言を参照されたい。



Bandarin 氏 (左) と Isar 教授

■岡野 浩 (都市研究プラザ副所長)

During the Plenary Session on May 31, Mr. Francesco Bandarin, UNESCO's Assistant Director-General for Culture, stressed that revision of the classification of creative cities within the existing 7 categories of literature, cinema, music, crafts, design, media arts, and gastronomy is currently being debated, that much more interaction is necessary between cities in the developed and developing world, and that the close relationships between urban creativity and world heritage should be secured.

Next, Prof. Raj Isar of American University in Paris, who is editor-in-chief of the UNESCO Creative Cities Report, described the importance of fostering cultural and creative industries on the ground locally in developing countries and issues related to that, and he pointed out that cultural and creative industries are engines for advancing creativity and innovation.

■ Conference Program

■ Day 1 – Friday, 31st May 2013

Conference Opening and Welcome

Prof. Andy Pratt, King's College London, Prof. Masayuki Sasaki, Osaka City University

Opening Plenary Beyond the Creative City

Prof. Allen Scott (UCLA)

【Plenary Session】 Cultural policy, cities and atmosphere

Deborah Leslie (University of Toronto): Discourses of Creativity and security in community arts programs in Toronto, Canada

Walter Santagata (University of Turin): Creative Atmosphere: local system of creativity and cultural networks

Chair: Francois Colbert (HEC Montreal)

【Parallel Paper Session1】

Session 1 A: Cultural policy, arts and the city

Chair: Lily Kong (National University of Singapore)

Irene Chini (Università IUAV di Venezia): Istanbul 2010: the role of culture in the political agenda of the AKP

Liam Duffy (4Cities/University of Vienna): The Artistic Atlas of Galway- conceptual mapping of artistic representations

Luciana Lazzeretti (University of Florence):

Resilience and Innovations in City of Art - The case of Chemical innovations after the 1966 Flood in Florence (Co-authored with Francesco Capone, University of Florence)

Lucia Parrino (Politecnico di Milano):

Local authority borough museums and 'creative city' policies: a case study of Hackney, London

Session 1 B: Cultural scenes, cultural clusters and the cultural economy,

Chair: Hiroshi Okano (Osaka City University)

Su-Hyun Berg (University of Kiel): Creative Cluster Evolution: The case of the

film and TV cluster in South Korea

Joan Ganau (University of Lleida): From subsidized muses to private arts? Culture and creative quarters in Barcelona

Pei Ling Liao (University of Birmingham): The CCI cluster policy – the conflict and compromise between policy and local contexts in Eastern Asian cities – A case study in Taiwan

Hideaki Sasajima (Osaka City University): Gentrification and law reform processes in SoHo

【Parallel Paper Session 2】

Session 2 A: Culture, creativity and the Global South

Chair: Jenny Mbaye (Cape Town University)

Saeed Alamoudy (Salford University): When creativity is the solution: How to transform Makkah into a creative city

Gilles Baro (University of the Witwatersrand): Branding the skyline: The corporatization of Johannesburg's semiotic landscape and implications for a shared public (co-authored with Mehita Iqani)

Cecilia Dinardi (LSE): From a postal hub to a cultural centre: Challenging culture-led urban regeneration policy in Buenos Aires

Session 2 B: Arts, creativity & cultural intermediaries in the city,

Chair: Edmond Préteceille (Sciences Po)

Marianna d'Ovidio (Università Milano- Bicocca): Entry mechanisms to the fashion industry of Milan

Mariangela Lavanga (Erasmus University Rotterdam): Fashion trade fairs as intermediary and temporary clusters

Oli Mould (Royal Holloway, University of London): Urban Subversions and the Creative City: The Case of the South Bank's Undercroft

Hiroshi Okano (Osaka City University): Cultural Editing and Urban Branding for Promoting Urban Creativity agenda

【Plenary Session】 : Creative cities and the creative economy: UNESCO policy

Francesco Bandarin (UNESCO): State of debate on the creative cities network

Yudhishtir Raj Isar (The American University of Paris): UNESCO creative economy report Chair: Andy Pratt (King's College London)

■ Day 2 – Saturday, 1st June 2013

【Plenary Session】 : Knowledge creation and protection in the creative economy

Lily Kong (National University of Singapore): Censorship and its paradoxes: looking for creativity in Singapore

Janet Merkel (Hertie School of Governance Berlin): Curating Urban Encounters: Coworking spaces and urban knowledge production

Chair: Deborah Leslie (University of Toronto)

【Parallel Paper Session 3】

Session 3 A: Co-working, creative spaces and hubs

Chair: Janet Merkel (Hertie School of Governance, Berlin)

Lorraine Farrelly (University of Portsmouth): An ‘Open Innovation’ Campus Environment - a university changing local business culture

Alice Holmberg (Clear Village Charitable Trust): Designing coworking for communities: the case study of Small Works (co-authored with Thomas Ugo Ermacora)

Volker Kirchberg (Leuphana University of Lueneburg): Governing Baltimore by Music Scenes? Insights from Governance and Governmentality Studies

Romulo Pinheiro (Agderforskning): Patterns of collaboration between academia and the creative sector: Mutual disrespect or intertwined agendas?

Session 3 B: Creative Policies and Local development

Chair: Klaus Kunzmann (Technische Universität Dortmund)

Anda Becut (Center for Research and Consultancy on Culture): Dynamics of Creative Industries in a Post-Communist Society. The Development of Creative Sector in Romanian Cities

Pedro Costa (ISCTE - Lisbon University Institute / DINAMIA/CET-IUL): Creative milieus, urban vitality and territorial governance: renewing the agenda for urban creativity? (Co- authored with Margarida Perestrelo & Cristina Latoeira)

Montserrat Pareja-Eastaway & Montserrat Simó-Solsona (University of Barcelona): Creative workers in four metropolitan cities in Spain: lifestyles, (net)working and the role of public policies.

【Parallel Paper Session 4】

Session 4 A: Creative work, precarious labour and the city

Chair: Allen Scott (UCLA)

Michael Bailey (Essex University): The wretched of the earth? Rethinking the "raggedy proletariat" in the films of Penny Woolcock

Karenjit Clare (Oxford University): All Work and Little Pay: Internships, Risk and Uncertainty in the Creative Economy

Roberta Comunian (King’s College London): Music graduates: creative work and careers in the UK (co-authored with Alessandra Faggian, Ohio State University, and Sarah Jewell, University of Reading)

Marta Rabikowska (University of Hertfordshire): The back and the front room of the O’Dowds Pub and the community arts project: Two worlds of social engagement in an urban context

Session 4 B: Attractiveness, art, tourism and local creativity

Chair: Walter Santagata (University of Turin)

Joao Martins (New University of Lisbon): The “ALLGARVE” program: urban tourism on a Mediterranean seaside area

Carlos Oliveira (University of Porto): Urban creativity, attractiveness factors and the ‘reinvention’ of Porto city-centre (Co- authored with Isabel Breda-Vázquez)

Daniel Paül i Agustí (University de Lleida): Differences in the localisations of urban museums and its impacts on urban areas

Maria Psarrous (Panteion University): Festivals and Creative Cities: The Greek Local Governments and the Festival Sector

【Plenary Session】 : Creative discourses beyond the West

Klaus Kunzmann (TU Dortmund): Creative Taiwan: Misunderstanding a Europe Biased Concept

Jenny Mbaye (University of Cape Town): Designing African Creative Cities from a Southern Perspective

Concluding remarks

■障害者の芸術表現について語り合う インクルーシブ・カフェ

Meeting Together to Talk about Artistic Expression by Disabled People ~Inclusive Café

障害者の芸術表現に対する関心が国内外で高まっており、2010年にパリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展が欧州で巡回されたり、今年のヴェネツィア・ビエンナーレで日本の作家の作品が展示され注目を集めた。こうした状況のもと、福祉施設等で生み出された作品が認知され、価値が実現していくような制度のあり方を検討すべく、文化庁と厚生労働省が本年6月より「障害者の芸術活動への支援を推進するための懇談会」を設置し、3回の議論を経て、中間とりまとめ（案）を作成した。

筆者が大阪府内の福祉施設を対象に行った調査では、利用者にとって芸術表現が重要な意味をもつと認識しているものの、施設職員だけでは公募展への応募や作品を活かした商品開発は難しく、多様な価値実現のために専門家の支援を求めるといった意見が多かった。

そこで5月から毎月1回、「インクルーシブ・カフェ」を開催することとした（会場はCCAを予定したが参加者が増えたのでキャンパス大阪に変更）。行政の支援を待つのではなく、対話の場を設けることによってネットワークを構築し、自発的なアクションにつなげていければという試みである。これまでゲストには、白岩高子氏（アトリエコーナス事務局長）、笠谷圭見氏（PR-y代表/株式会社RISSI取締役副社長）、柘伸江氏（株式会社ダブディビ・デザイン代表取締役）らをお迎えした。参加者は施設職員やクリエイター、芸術大学教員、行政職員等、大阪だけでなく京都や奈良、滋賀、和歌山からも参加があり、毎回約30人が集っている。

17世紀頃、ウィーンのカフェでは、自由闊達な対話の中から時代を変える思想や学術、芸術が創造されたという。そういう場になればという大きな夢をもちながら、今後も継続開催していく予定である。

■川井田祥子（都市研究プラザ特任講師）



障害者作品をもとにしたグッズ

Beginning in May of this year, and 'Inclusive Cafe' is being held once a month. The goal is to build a network through a dialogue with many different kinds of people around the theme of artistic expression by disabled people.

■奈良県吉野郡十津川村との連携 ～踊り研究会を通じて

Collaboration with Totsukawa Village in Yoshino County, Nara Prefecture ~Through a Dance Research Group

村としての面積が日本最大の十津川村は、林野が96%をしめている。明治から昭和初期に栄えた林業は昭和30年代から急速に停滞し、人口減を押しとどめることができない。1960年の1.6万人弱を頂点に、2013年4月には3,799人にまで減少している。他方で豊かな自然資源（一部は世界自然遺産）と文化資源（重要無形文化財である盆踊り）をもち、「眠れる森」の様相を呈している。その活性化に十津川村農林課、観光振興課と共同で工学研究科の横山俊祐教授（建築計画）、文学研究科の中川眞教授（都市研究プラザ兼任研究員、アーツマネジメント）、生活科学研究科の三浦研教授（環境行動）らが取り組んでいる。森林資源へのアプローチは、木造建築の再評価、廃材等からの生活道具の製作、古道の整備、村食材による新メニュー開発、木材を中心とする高齢者コミュニティの形成などを繋げた「木域学」という新しいコンセプトで始まった。

文化資源へのアプローチでは、30年以上のこれまでの参与観察に基づく知見をモデル集落（武蔵）に適用し、住民と都市民との交流を促進させている。その一試行として、大阪・船場アートカフェにおいて、十津川村での盆踊り経験者や今年の盆踊りに参加意向のある市民、研究者、学生等が集まり、都市研究プラザの協力のもと、盆踊りの練習を定期的に行っている（主催：コミュニティと民俗芸能研究会）。

大学の地域貢献は中遠距離に及び、その延長線上にグローバル展開がある。過疎や高齢化、格差等、都市が抱える諸問題は全て条件不利な山間地域において先行してきた。都市問題を捉える上でも、これらとの地域との連携研究・実践には重要な意味がある。

■中川 眞（都市研究プラザ兼任研究員/文学研究科教授）



盆踊りの練習風景

At the Urban Research Plaza, as part of our activities contributing to local communities, we are collaborating in joint projects with local governments in the southern Kii Peninsula. As one of these projects, at the Senba Art Café in Osaka we are activating an exchange between the city and a rural village that utilizes the cultural resources such as the Bon dances of the village of Totsukawa. In a rural village suffering from depopulation and other problems, practical implementation that is connected to 'urban research' is getting under way.

■URP・Information CCS編集体制の拡充

国際学術ジャーナル *City, Culture and Society* (CCS) は刊行4年目を迎え、助走期間から着実な成長期間へと移行を始めた。投稿者の所在国数は43ヶ国を数え、年間数万件のダウンロードがなされるようになった。これは、我が国の大学・研究機関が刊行する文系学術誌としては、異例のものであり、内外から高い評価を得ている。

本年からエディターにロンドン大学キングスカレッジのAndy Pratt教授とHEC モントリオールのFrançois Colbert教授が新たに加わり、編集体制が強化された。それに伴い、CCSの背表紙に、都市研究プラザのロゴを中心に、ロンドン大学キングスカレッジおよびHEC モントリオールのロゴが印刷されることとなった。



両大学は世界ランキングでも上位にある名門大学であり、この提携によってCCSおよび大阪市立大学の世界の学術界におけるプレゼンスが格段に高まることが期待される。

Vol.4-1、4-2は一般投稿論文のみで構成されている。AUC学会のキーマンの一人であるUCLAのAllen J. Scott教授の論文も掲載されている。

Volume 4, Issue 1, March 2013 Original Research Articles

1. The geography of celebrity and glamour: Reflections on economy, culture, and desire in the city : E. Currid-Halkett and A.J. Scott
2. Working in the Australian suburbs: Creative industries workers adaptation of traditional work spaces : E. Felton
3. The interaction between the port and Kaohsiung city: Economy, institution and power : L.-L. Chia-Hong
4. Towards a conceptual framework for urban management: The Iranian experience : M. Arefi
5. An alternative view of public subsidy and sport facilities through social anchor theory : C. Seifried and A.W. Clopton

■イベント・研究会の予定

- 8/21 インクルーシブ・カフェ Vol.4
・・・キャンパスポート大阪 第1ユニット
- 8/24 総括円座「近世身分社会の比較史—法と社会の視点から—」
～25 ... 大阪市立大学経済学部棟 第1ユニット
- 9/11 インクルーシブ・カフェ Vol.5
・・・キャンパスポート大阪 第1ユニット
- 9/19 あわぎスタイル.02 2013
～21 ... クリエイティブセンター阿波座界限 第1ユニット
- 9/30 特別研究員(若手)合評会
・・・大阪市立大学・高原記念館
- 12月 第4回 国際ラウンドテーブル会議

■特別研究員(若手)公募

URP 特別研究員(若手)募集(平成25年8月募集分)の応募受付期間は、8月9日(金)です。情報⇒<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html>

■URP-Newsletterの次号発行は2013年11月の予定です。

■URP・Information 「いきている長屋 大阪市大モデルの構築」出版 谷直樹・竹原義二 編著

都市研究プラザの現場プラザのひとつ、豊崎プラザの再生をテーマとした「いきている長屋 大阪市大モデルの構築」が出版された。

本書は、大阪の居住文化を伝える豊崎長屋の7年間にわたる実践的研究・教育活動を様々な角度からとらえ、見つめなおした集大成であるとともに、未来に向けて発信する提案書でもある。

これまで都市研究プラザに深くかかわってきた元生活科学研究科教授の谷直樹氏と竹原義二氏が中心となり、豊富な写真や図とともに、歴史、貸家経営、暮らし、改修デザイン、耐震構造・設計、教育、福祉、まちづくり等、9人の執筆者がそれぞれの分野から論じている。

居住文化とは、古い建物や街並み等のハードだけでなく、現代生活で忘れられている季節ごとの暮らし方、木造家屋の住みこなし方、近所への心配り等のソフトと共に存在していること、そしてその今日における価値をわかりやすく提示している。古い町家を商業施設にコンバージョンするのではなく、特に「住むこと」にこだわった豊崎長屋の再生は、庶民のまち大阪の居住文化に基づいた都市再生の市大モデルであることを示している。このことは、文化創造と都市の再生の結びつきを追求したグローバル COE プログラムの成果の一つとしても意義深いものと思われる。



出版社
NPO 法人大阪公立大学共同出版会
(OMUP) <http://www.omup.jp/>
Tel. 072-251-6533
定価：本体2,500円＋税
ISBN978-4-907209-03-2 C0052

URP
Osaka City University | Urban Research Plaza
大阪市立大学 | 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が2006年4月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が社会に集まる広場をめざしています。2007-11年度グローバルCOE拠点「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」の実績をさらに発展させ、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 tel.06-6605-2071

e-mail : office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

所長 佐々木雅幸 副所長 水内俊雄 岡野浩 富田常雄
ユニット長 1U 佐々木雅幸 2U 嘉名光一 3U 水内俊雄 4U 岡野浩

大阪市立大学都市研究プラザ ニュースレター 第20号

編集委員会 佐藤由美 野村侑香

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/>